

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：25302

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K12967

研究課題名（和文）高齢者介護事業における包括的な業績評価に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Comprehensive Performance Evaluation in Care Services for Older People

研究代表者

井上 祐介（Inoue, Yusuke）

新見公立大学・健康科学部・講師

研究者番号：60735497

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、高齢者介護事業における包括的な業績評価指標を開発するためのエビデンスを蓄積することをねらいとし、財務的業績と非財務的業績との関連性を検証した。介護老人福祉施設1,266施設を対象とし、2021年度の財務データと非財務データを用いて検証した。その結果、大規模な施設ほどアウトカム加算を取得する傾向があり、運営状況も良好である可能性が示された。アウトカム加算には利用者の状態改善だけでなく、サービス提供体制の整備が求められるため、体制が整っていない施設では加算が取得できず、実像を適切に把握できていない可能性がある。今後は、縦断データを用いた分析など、より詳細な分析が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢者介護事業を行ううえで「サービスの質」の向上が求められる反面、事業を継続的に進めていくためには財務的安定性の確保も求められる。さらに、公益性を担保するために事業経営の透明性や地域における公益的な取り組みも要求される。したがって、高齢者介護事業の業績評価は多面的に行う必要がある。これまで、非財務面や財務面など、一面的に検討した研究は行われていたものの、その両面から検証した研究は十分に行われていなかった。本研究では、社会福祉法人立の介護老人福祉施設1,266施設のデータを用いて検証を試み、現行のアウトカム加算の限界点などの示唆を得た点に、本研究の学術的意義や社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to accumulate evidence for developing comprehensive performance evaluation indicators in elderly care services and examined the relationship between financial and non-financial performance. The analysis targeted 1,266 nursing care facilities for older people, using financial and non-financial data from fiscal year 2021. The results indicated that larger facilities tend to obtain outcome-based additions more frequently and potentially have better operational conditions. Outcome-based additions require not only improvement in the condition of the residents but also the establishment of service provision systems. Therefore, facilities that do not have well-established systems may fail to obtain these additions, leading to the possibility of not accurately capturing the actual outcomes. Future research requires more detailed analyses, such as those using longitudinal data.

研究分野：福祉経営

キーワード：高齢者介護事業 業績評価 福祉経営 管理会計

1. 研究開始当初の背景

社会福祉法人は高齢者介護事業を行ううえで「サービスの質」の向上が求められる一方、事業を継続的に進めていくためには財務的安定性の確保も必要とされている。さらに、公益性を担保するためには、事業経営の透明性や地域における公益的な取り組みの実施も求められており、社会福祉法人の高齢者介護事業の業績評価は多面的に行う必要があると言える。

高齢者介護領域における業績評価研究として、介護サービスの評価に関する研究(伊藤, 2013; 伊藤, 2016)、介護職員等の人的資源管理に関する研究(岸田, 2006; 張, 2008)、財務的評価の研究(宇野, 2006; 松原, 2016)などがある。しかし、これらの研究はサービス面や財務面など一面的に検討したものであり、財務面とサービスなどの非財務面の両方から捉えて検証している研究は十分に行われていないのが現状である。

海外においても、日本と同様に非財務面での評価に関する研究が中心に行われており(Werner, B., 2009; American Health Care Association, 2011)、財務と非財務の両方からアプローチしている研究は十分に行われていない。

2. 研究の目的

そこで、本研究では社会福祉法人の高齢者介護事業のうち、介護老人福祉施設を対象とし、財務と非財務の両面からみる包括的な業績評価指標の開発に向けたエビデンスを蓄積することを目的とし、介護老人福祉施設における財務的業績とサービスの提供状況などの非財務的業績との関連性を検証する。

3. 研究の方法

対象

財務面に関して、介護報酬は、全国一律ではなく、事業所が所在する地域等も考慮した、サービス提供に要する平均的な費用の額を勘案して設定されている(介護保険法第41条第4項等)。特に、サービス提供従事者の賃金や人件費の割合は、地域とサービス種別によって差があるため、これらを勘案して介護報酬は、地域別に8区分され、それぞれ1単位あたりの単価を定めている(厚生労働省)。さらに、会計基準は法人形態によって異なるため、異なる法人形態間の比較が難しい。こうした背景があるため、本研究では、対象を都市部に限定し、東京都(555施設)、大阪府(422施設)、愛知県(289施設)の社会福祉法人立の介護老人福祉施設を研究対象とした。

用いたデータ

社会福祉法人の財務データはWAM-NETから収集した。非財務データは、福祉サービスの情報公表システムから、組織やサービス、各種加算、運営状況点数等に関するデータを収集した。それらのデータを結合し、データセットを作成した(n=1,266)。対象は2021年度のデータとした。

アウトカム指標

非財務面での質の評価において、ストラクチャーやプロセスの評価のみでは、サービス提供体制やサービス内容を評価できても、利用者の状態改善の状況をとらえることはできない。そのため、2006年の介護報酬改定以降、利用者の状態改善を重視するアウトカム評価と加算が連動させたアウトカム加算が導入されている。そこで本研究でも質の評価として、アウトカム加算に着

目し、ADL 維持等加算()、()、褥瘡マネジメント加算()、()、および排せつ支援加算()、()、()の項目を用いた。これらの指標は、介護サービスの効果を具体的に測定し、利用者のQOL向上や状態改善に直結するものである。

さらには、運営状況の項目として、利用者の権利擁護、サービスの質の確保への取組、相談・苦情等への対応、外部機関等との連携、事業運営・管理、安全・衛生管理等、従業員の研修等を用いた。

財務面での評価として、事業活動計算書の中から、介護保険事業から得られる収益を示す「サービス活動収益計」と、そこからサービス活動費用を引いて算出される「サービス活動増減差額」の収益に対する割合(サービス活動増減差額率)を用いた。これらの変数間の関連性をみるために、介護報酬の地域区分(8区分)を考慮した編相関分析を行った。

4. 研究成果

分析した結果、事業活動収益計が多い施設、つまりは大規模な施設ほど、アウトカム加算を取る傾向があり、運営状況も良好である可能性がみられた。アウトカム加算を得るには、利用者の状態の維持改善のみを評価するのではなく、複数の専門職が関わって要因分析を行うことや、支援計画の立案などのサービス提供体制等の整備等も必要になる。したがって、利用者の状態の維持改善ができていても、サービス提供体制等の項目がクリアできていなければ加算されなくなる。この条件を満たすことができず、加算を取れていない施設があった場合、アウトカムの実像を適切につかめていない可能性もある。

	サービス活動 収益計	サービス					
		活動増減 差額率	運営状況点数	ADL 加算あり	褥瘡加算あり	排せつ加算あり	加算あり
サービス 活動収益計	1	0.14**	0.22**	0.10**	0.07*	0.06*	0.11**
サービス 活動増減差額率	0.14**	1	0	0.02	-0.03	0.02	0
第三者 評価点数	0.22**	0	1	0.05	0.12**	0.09**	0.13**
ADL 加算あり	0.10**	0.02	0.05	1	0.19**	0.24**	0.61**
褥瘡加算あり	0.07*	-0.03	0.12**	0.19**	1	0.38**	0.83**
排せつ加算あり	0.06*	0.02	0.09**	0.24**	0.38**	1	0.68**
加算あり	0.11**	0	0.13**	0.61**	0.83**	0.68**	1

今後の展望

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実施が延期となった業績評価に関する意識調査の実施や、縦断データを用いた分析、各法人の経営戦略や提供するサービスの種類等を考慮した、より詳細な分析が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Jeong Seungwon, Inoue Yusuke, Arai Yasuyuki, Ohta Hideki, Suzuki Takao	4. 巻 19
2. 論文標題 What Should Be Considered When Evaluating the Quality of Home Care? A Survey of Expert Opinions on the Evaluation of the Quality of Home Care in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 2361～2361
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph19042361	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Inoue Yusuke, Jeong Seungwon	4. 巻 17
2. 論文標題 Did the Number of Older People Requiring Long-Term Care and Expenditure Increase after the 2011 Great East Japan Earthquake? Analysis of Changes over Six Years	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 1621～1621
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph17051621	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Arai Yasuyuki, Suzuki Takao, Jeong Seungwon, Inoue Yusuke, Fukuchi Masahiko, Kosaka Yoshimichi, Nagashima Koji, Ohta Hideki	4. 巻 20
2. 論文標題 Effectiveness of home care for fever treatment in older people: A case-control study compared with hospitalized care	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Geriatrics & Gerontology International	6. 最初と最後の頁 482～487
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1111/ggi.13909	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Jeong Seungwon, Inoue Yusuke, Kondo Katsunori, Ide Kazushige, Miyaguni Yasuhiro, Okada Eisaku, Takeda Tokunori, Ojima Toshiyuki	4. 巻 16
2. 論文標題 Correlations between Forgetfulness and Social Participation: Community Diagnosing Indicators	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 2426～2426
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/ijerph16132426	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 鄭丞媛, 井上祐介, 芳我ちより, 近藤克則
2. 発表標題 岡山市におけるSIBを活用した健康ポイント事業参加者の歩数と歩行日数の変化の分析
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 芳我ちより, 鄭丞媛, 井上祐介, 近藤克則
2. 発表標題 岡山市におけるSIBを活用した健康ポイント事業参加者のベースライン時の健康状態
3. 学会等名 第32回日本疫学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 花家薫, 井上京子, 西水卓矢, 石原敏孝, 前田梨紗, 井上祐介, 鄭丞媛, 近藤克則
2. 発表標題 堺市介護予防「あ・し・た」プロジェクトの概要と参加者の特性
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 井上京子, 花家薫, 西水卓矢, 石原敏孝, 前田梨紗, 井上祐介, 鄭丞媛, 近藤克則
2. 発表標題 堺市介護予防「あ・し・た」プロジェクト～成果連動型委託契約の成果指標と課題～
3. 学会等名 第79回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒井康之, 鄭丞媛, 井上祐介, 太田秀樹, 鈴木隆雄
2. 発表標題 在宅医療における医療の質の評価指標に関する意識調査 医師・看護師は、何を重視して在宅療養を支援しているのか
3. 学会等名 第1回日本在宅医療連合学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 井上祐介, 鄭丞媛, 井手一茂	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 9
3. 書名 評価を実施する上での追跡期間・データ数の目安(第5章). 近藤克則編: ポストコロナ時代の「通いの場」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関